

⑨ ひがし幼稚園 1968(S43)～

設立 初代園長石井のぶ子は独身時代、鎌倉市立玉縄小学校、大船小学校等で教師をしていた。低学年を受け持つことが多く、入学以前の教育が子どもたちにとって大切だと感じていた。

その後石井専三と結婚し教師時代の思いをかなえようと考え、石井家の地所である通称ひがし山の一角を造成し、大船東幼稚園(現・学校法人大船いしい学園ひがし幼稚園 大船6-10-10)を設立、夫婦で幼児教育に携わった。68年4月、年中・年長2クラス、約50人の園児が入園した。

理想の園舎 のぶ子は、教室のドアを開けるとすぐ園庭に出られ、子どもたちが安全で自由に遊べるようにと考え、園舎は平屋建てにし、園庭に向かってドアのある建物を建てた。この園舎の基本構造は、55年たった現在も変わっていない。



園庭に向かってドアのある園舎

自然 園舎の玄関には大きな水槽が有り、亀、ウニ、魚などが飼育され、子どもたちが覗いていく。園が出来たばかりの頃は森の中の幼稚園だったが、今は住宅地の中。和賀江島や野山に出かけて自然と触れ合い、園の無農薬農園で土に触れ、食物を育てる苦労や収穫の喜びを体験する。

健康体操 「必要な時期に大切な運動を」という考えを基本に、身体や心の健康について、経験を通して自分で学び、自分で考えられるようプログラムされている。

造形表現活動 美術大学出身の現園長石井秀卓が、年少年中の創造性を伸ばすため、フィンガーペインティング、コラージュなどを教育に取り入れている。年長になると「死んだらどうなる？」をテーマに、園長とのディスカッションが行われ、それぞれの表現方法で絵を制作する。生きることの意味、生き抜くことの大切さを考える機会になればと、20年近く続けられている。

